

ダンス年表アンケートまとめ(年代順)

※赤字は頂いた情報を元に調べ、記載した箇所になります。また詳細が確認できなかったものに関しては、一部の情報掲載を見送っております。

※今回はお答えいただいた方の記憶を元に掲載をしております。そのため情報に多少のズレや誤りがある可能性がございます。ご本人またはご関係者で情報の誤りにお気づきの方は、修正いたしますので、お手数ではございますが、是非ご連絡いただければ幸いです。

No	ダンスとの関わり	作品タイトル	アーティスト	会場	上演年	印象に残っていること	備考
1	ダンスの観客	タカラヅカの何かのレビュー	宝塚歌劇団	東京宝塚劇場	1970年後半	キラキラして攻めていた。	
2	振付家	貧棒な人	大駱駝艦及び出身舞踏家	アトリエ豊玉伽藍	1979年	各流派の中で、東方夜総会(白虎社)が、カオスで面白かった。その後、入団した。	
3	舞台芸術のスタッフ	Lovers	ダムタイプ	スパイラルホール	大学生のころ	身体を映し出す映像と音がシンクロするととても美しい作品でした。	
4	振付家		バットシェバ舞踊団	NHKの劇場放送	1997年	それまでバレエ筋だったので、ダンス作品とは思わず見ました。音楽と振付との関係性が見たことのない感じで、面白い状況とユニークな振付、身体能力などを目の当たりにして、クセになるこの感じなんだろう、、と思ったのが最初の印象です。大きな男の人2人が赤い風船を持った小さな男の人を挟んでベンチに座っている絵がとても素敵でした。	
5	舞台芸術のスタッフ	ヴィクトール	ピナ・バウシュ&ヴッパタール舞踊団	彩の国さいたま芸術劇場大ホール	1999年	社会人1年目の初任給で買ったチケット。元々、大学時代に如月小春さんから、現代芸術の最先端としてタデューシュ・カントゥールとピナ・バウシュの2名を薦められたから、世界の最先端ってどんなだっけって観に行った。舞台上にデッカい崖があって、ダンサーが座りながら前に前進しつつ振り付けを舞っていた。最初から最後まで何が何だかわかっていなかったのだが、上演の途中でダンサーが客席に入って、其処でガーリックトースト？を配っていて、それを私は貰った。そして、本番中にそれを食べた事が強烈な思い出。終演の際に、何だかわからないけれど、どっと涙が出た。後々で、『ヴィクトール』の解説を色々な人の本で読んで、実は崖の下の人たちというのは、ホロコーストで葬られた人たち何だとか、色々わかったのだけれども、多分、あの時、あの場所で感動したことは、そういう知恵以前の直接的な何かだったと思います。	
6	ダンサー	太陽にくちづけ V ビューティフルサンデー	コンドルズ	東京グローブ座	1999年	近藤良平さんを初めて観た 1999年3月、コンドルズ 太陽にくちづけV ビューティフルサンデー が全ての原点。コンドルズは初めてコンテンポラリーダンスに触れた衝撃作品。	
7	振付家	生きたまま死んでいるヒトは死んだまま生きているのか？	伊藤キム	世田谷パブリックシアター	2000年	暗い照明で裸の3人の男性がクラシック音楽の中、とてもゆっくりとうごめいていて、荘厳で美しく怖くて実際に口が空いて閉まらなかったです。鳥肌が立ちました。まだ踊りを始めたばかりでしたが、いつかこの人の作品に出たいと思いました。	
8	振付家	フリル(ミニ)	珍しいキノコ舞踊団	DELUXE	2000年	とにかく、たくさん遊び心が詰め込まれた作品で、ダンス作品が、「動き」だけをみせるものではないことや、何かをお手本にするのではなく等身大の感覚を丸ごと使って作られていること、「フリル(ミニ)」というタイトルにこめられた意味など、そのひとつひとつにわくわくして、濡った帰り、駅までの道を、思わず走ってしまうほどでしたw!	
9	振付家	ハバククの弁明	ジョセフ・ナジ	世田谷パブリックシアター	2001年	『ハバククの弁明』はチラシの時点で気になって前情報なしで観に行き好きな公演でした。	

ダンス年表アンケートまとめ(年代順)

10	ダンサー	薔薇の人『Roll』	黒沢美香	神楽坂die prätze	2002年 1月	長らく離れていたダンスを再開して、初めて小さなソロ作品を上演した少し後に観たと思います。なぜ踊るのかとか、踊る覚悟みたいなものがつんと投げつけられた気がしてひとり凹みました。没頭するダンスという印象が残っています。	
11	プロデューサー・制作	明日はきっと晴れるでしょ	砂連尾 理十 寺田みさこ	シアタートラム	2002年 7月	1996年に山海塾の卵熱を観て以来、身体表現の広がり、それも国外に開かれるものを感じて、コンテンポラリーダンスの可能性を感じました。	
12	ダンサー	MINUS 16 (NHK・映像放映)	NDT(ネザーランド・ダンス・シアター)日本公演 オハッドナハリン		2003年	当時高校生でバレエをやっていましたが、ダンサーのグローヴが凄くて無性に踊りたくなりました。激しい中にも通底する暖かみが印象的です。	
13	プロデューサー・制作	イベントで上演されたダンス	手塚夏子		2003年頃	体育的ではない身体の魅力とダンスの奥深さ。	
14	ダンサー	質量, slide , & .	白井剛	シアタートラム	2004年	冒頭、白井さんが直立のまま真後ろにぶっ倒れたこと。	
15	舞台芸術のスタッフ	冬の旅	エマニュエル・ガット	青山円形劇場	2004年	ダンスそのものをまだあまり観たことがなかった頃に、なんのセットもない中、静寂の中で踊っていた印象なんです。音はあったと思うんだけど、彼らの鼻からたくさん息を吸う、息遣いがとても印象的で、完璧なシンクロで、これがダンスか、とポカーンとなりました。生きるためのダンスなんじゃないかと、失敗したら死ぬんじゃないかと思いました。	
16	ダンサー	吾妻橋ダンスクロッシング 「育ちゃんへ」	身体表現 サークル	アサヒ・アートスクエア	2004年	初めて、吾妻橋ダンスクロッシングで 育ちゃんへ を観たときは常楽、竹内、山田と黒田育世さんのコラボは衝撃でした。身体表現サークルの方はコラボが素晴らしいと思いつつ、のちに広島回転人間やしんぱい少年と一緒にしたおもいがけない作品。	
17	ダンスの観客	If You Couldn't See Me(もしもあなたがわたしを見れなかったら)	トリシャ・ブラウン	ニューヨーク	2004年 or2005年	ダンサーが観客に背を向けたまま、踊り抜くソロダンス。トリシャが70歳になり、この作品を踊るのは最後と明言していました。モダンダンスの極致だと思いました。軽妙であり、チャレンジ精神に満ち溢れていて、それでいてさみしい感情がにじみ出っていて、魅了されました。	
18	プロデューサー・制作	るるざざ(の一部)	ほうほう堂	横浜市立東山田中学校	2005年	芸術家が学校に出かけていく、その流れの初期だったように思います。一時間目の、校庭から差し込む朝の光の中で見た彼女たちのダンスは素晴らしいものでした。劇場は、劇場の外にもあるんだな、と思いました。	
19	ダンスの観客	遠藤公義のソロ タイトル不明	遠藤公義	ロンドン舞踏フェスティバル	2006年	演劇をやっている者なのですが、初めて身体がし得る表現力に衝撃を受けた。完璧に身体への視点が変わった瞬間だった。	
20	振付家	春の祭典	ピナ・バウシュ	国立劇場	2006年	この作品が自身にとってピナ・バウシュ初体験 こんなにも豊かに生きてることや、人物達の存在感といか存在を表現出来る事が出来るのかと感激したことを覚えています。	

ダンス年表アンケートまとめ(年代順)

21	プロデューサー・制作	春の祭典	ピナ・バウシュ	国立劇場	2006年	地方から上京してきて、キャッチーな商業演劇やミュージカル作品以外観る機会のなかった私にとって、エンターテインメント性のみを追求した作品以外をほぼ初めて生で観る機会でした。前半で上演された「カフェミューラ」も同じく印象に残っていますが、土ぼこりの舞う中、一心不乱に男女が踊る様子は、とてもショッキングな画で、美しかったです。帰り際、この余韻に浸りたくて、近くの大学生にとっては少しリッチなイタリアンのお店に友人と入ったことも良き思い出として残っています。	
22	振付家	イザベラの部屋	ヤン・ロワース&ニードカンパニー	彩の国さいたま芸術劇場	2007年	『イザベラの部屋』は、忘れられない、全てのダンサーや出演者のいかたの素晴らしさ、今もずっと影響を受けている作品です。	
23	プロデューサー・制作	2010頃に上演された KENTARO!!さんのダンス作品	KENTARO!!		2010年	演劇しかせず、ダンスいっても劇中の振り付けくらいしか知らなかったのですが、ダンスだけで表現する、身体表現から目が離せない！と思って思わずかじりついた作品でした。	2010年の主な上演 単独ソロVol.6 「僕はまた今日も 未完成の音楽で唄う」@こまばアゴラ劇場 東京ELECTROCK STAIRS 「長い夜のS.N.F」 @座・高円寺1 など
24	プロデューサー・制作	ポレロ(会場名不明、比較的若い頃の映像かと思われる)	シルヴィ・ギエム	美術大学の文学の授業(映画論など、映像の鑑賞指導がメイン)	2010年秋	漠然と舞台芸術やダンスに興味がありつつ、バレエ、オペラなどのクラシックもしくは音楽のPV、フィギュアスケートなど大衆的なもの以外を知り得なかった当時、こんなに有名な曲をこんなにへんな格好で、こんなにへんな振り付けで踊っているのになぜ情熱が掻き立てられるのか、その不思議さ、不可解さにさらに気持ち湧き上がった。それが初めて観たコンテンポラリーダンスだった。映画鑑賞が主な授業だったが、映画の音楽、原作の物語、などの文脈に乗せた流れでの鑑賞だったので、不可解に思いつつもストンと胸に落ち、これはこういうものなのだ、というわからないけどわかる、感じが忘れられない。	
25	ダンスの観客	CHAP DANCE 主催公演『空宇宙室』vol.4 “KINETIC IMAGE”	「fish scales」 嶋田勇介 (Butoh) × 中川敏光(電子音響)	Chapter2	2012年	なんというか、突き刺してくるような不安な感覚があり、ダンスというのは確信的に魅せるために踊るものという観念の、真逆のものを観たような気がしました。白い芋虫がひっくり返ったまま起き上がれずにいるようすを、リアルに観たような。その後、数日間にわたっているような夢を見たり、不安定な感覚を覚えたりしていました。幾つかのダンスを、時々観に行きますが、この作品以上の『衝撃』は未だに無いです。	
26	ダンサー	Dance 4 All 2012 発表公演 『ひとつの明るい建物』	黒沢美香	京都芸術センター	2012年～	ダンス経験はありませんでしたが、身体表現は知っていました。友人の誘いで、京都の芸術センターで、コミュニティダンスに何度か出たのですが、黒沢美香さんの振り付けに驚愕しました。振り付けを踊るというより、僕自身の身体から出てくるものをダンスというメソッドで構成する感じで、振り付けを憶えるという感覚が無かったです。	
27	ダンサー	WAVE	黒沢美香	六本木スーパーデラックス	2015年	何回も観たマスターピースですが、この回は何か特別でした。美香さんの踊りはもちろん、客席の空気感も全て鮮明に残っています。あんな時空間の変容のさせ方は踊りにしかできない。アイディア自体も面白い作品ですが、それを踊りが超えたのだと思います。	
28	ダンスの観客	斑	岩淵貞太	のげシャール	2016年	3人の関係性、音と照明の重なりについて考えると同時に、現前で起きていることを一つも取り残してはいけないという気持ちで観ました。ダンスとは何かを考えるきっかけになった作品であり、その問いに対する探求は今でも続いています。	

【修正履歴】

※4/17 25番の作品タイトル・アーティスト名を修正いたしました。